

基本目標4

資源を磨き、みんなで応援・発信しよう

観 光	まちの魅力を活かした観光の振興	① 地域資源の活用による魅力の創造を図り、魅力を発信します ② 交通対策、景観等の基盤整備を進めます ③ おもてなしの向上を図ります ④ 広域観光を推進します
文 化	豊かな文化の継承と活用	① 芸術文化に触れる機会の確保を図ります ② 芸術文化活動の促進を図ります ③ 芸術文化活動の拠点整備に努めます ④ 歴史的・文化的資産の保護、活用に努めます
産 業	持続的な農林業の振興	① 安定した営農体制の確保に努めます ② 産地化の促進を図ります ③ 地産地消の促進を図ります ④ 農地、農村環境の保全に努めます ⑤ 有害鳥獣対策の促進を図ります ⑥ 森林資源の管理、活用に努めます
	活力を生み出す商工業の振興	① ニーズに合った商業の展開を図ります ② 商工業経営基盤の強化を図ります ③ 企業立地の支援を図ります





まちの魅力を活かした観光の振興

● 現状と課題 ●

当町へは、令和元年に約 240 万人の観光客が訪れていますが、宿泊客は年々減少傾向にあります。近年の旅行動態として、物見遊山的な団体旅行が減少し、友だちや家族といった小グループや、一人旅といった個人旅行が増加しており、その観光ニーズも多様化・個別化してきています。また、一人の情報発信が多くの人を呼ぶというような、SNSの活用が観光の集客面に大きな影響を与えています。これらのことから、SNSを活用した集客をしつつ、ニーズに応えられる観光コンテンツを増やすことや、当町の特長的な資源である鈴鹿国立公園等の多種多様な動植物など生物多様性や自然本来がもたらす憩い、癒しを観光客に提供するための農業体験、産業体験、自然環境学習、スポーツイベント等と他産業との連携をさせた着地型観光の創出が求められています。

少子高齢化が進展している中、観光のまちとして持続的に発展するには、菰野町を観光で訪れた人がそれをきっかけにその後も地域の人々に関わるような関係人口を増加させることが必要であり、そのためには自然を活かした景観整備や商品開発とともに、住民も一体となってまちの魅力を情報発信するなど、まちぐるみで「おもてなしの心」を持つことが不可欠です。あわせて、観光客を増やすだけでなく、実質的な経済的効果を生み出す地域内での経済循環のしくみを構築することが大切であり、当町の魅力は農村景観や特産物など町全体として発揮されるものであることから、観光事業者と農業者などの他産業の事業者との連携、協働による特産品開発や食の観光が進められています。

湯の山かもしか大橋の開通、新名神高速道路菰野インターチェンジの供用開始など、当町の交通インフラは整備され、宿泊拠点である湯の山温泉街へのアクセスは向上しました。しかしながら、湯の山温泉街周辺では、四季折々の景観や川のせせらぎが楽しめますが、観光情報が取得できる場所や休憩できる施設が少ないなど、来訪者があまり温泉街を回遊せず、滞在時間が長くないことから、にぎわいを創出できていないのが現状です。

当町では、地域の魅力ある観光資源を広域的にネットワーク化する広域観光を推進してきたこともあり、外国人を中心に旅行者が増加していましたが、令和2年に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、外国人、日本人を問わず大きく減少に転じ、観光業は、大きな影響を受けました。当面の間は、比較的近隣からの集客に重点を置いた取り組みを行い、そのような旅行者を中心に広域観光を進め、観光業の回復を図ることが求められます。また、新型コロナウイルス感染症収束後も見据えて今後の観光振興のあり方を併せて検討していく必要があります。

開湯 1300 年の歴史ある湯の山温泉を魅力あるものにするために、自然、健康、スポーツを通じた観光振興とともに、渋滞対策や防災対策、空き店舗開業支援などにより観光客に安全かつ快適な時間と場所を提供できる環境整備が求められます。そして、自然豊かな環境を有する当町においては、更なる滞在時間の長期化を目指し、そのことを強みにした滞在型観光推進の検討も必要です。

これらのことを踏まえ行政は、一般社団法人菰野町観光協会を中心として、宿泊事業者、観光事業者、交通事業者などと協働してより魅力的な観光地域づくりを実現することが求められています。



● 目指す方向 ●

① 地域資源の活用による魅力の創造を図り、魅力を発信します

② 交通対策、景観等の基盤整備を進めます

③ おもてなしの向上を図ります

④ 広域観光を推進します

● 関連する個別計画 ●

- ・菰野町観光振興プラン（①～④）
- ・菰野町空家等対策計画（①②）

● それぞれの役割 ●

町民・地域の役割	行政の役割
・町内の観光地を訪れ、地域の資源を再発見、再認識する ・まちの魅力をSNSなどで発信する ・地域の観光情報に興味、関心を持つ ・観光客に対するおもてなしの心を持つ	・地域の魅力、特色について多様な情報媒体を活用し情報発信を行う ・観光資源の発掘、周遊ルートの検討、農林業体験等体験メニューの創造を関連団体と連携して行う ・町民が地域の魅力を発信、応援できるための環境づくりを行う ・近隣市町と連携し、広域観光メニューの創出に努める



豊かな文化の継承と活用

● 現状と課題 ●

ストレスのたまりやすい現代社会にあって、住民の心に潤いと生きがいをもたらすものとして、芸術文化の果たす役割はますます大きくなっています。当町におけるスポーツ、文化活動の推進母体である「菰野町スポーツ・文化振興会」との連携のもと、住民の自主的な芸術文化活動が活発に行われるよう、地域における住民主体の文化活動を幅広く支援していくとともに、観光ニーズの高い歴史や文化を体験できるようなイベントを連動させることで誘客につなげつつ、観光客のみならず多様な世代が地域と関わる関係人口の創出に取り組み、地域活性化に努めなければなりません。

当町が持つ豊かな文化を、人々がひきつけられる魅力ある地域資源として有効に活用するためには、メディアなどを活用した積極的な情報発信に努めることが求められます。

文化を次世代へ継承するためには、まず当町が保有する貴重な文化財や伝統文化の価値を学ぶ必要があり、小さい頃から文化的な教養を深めることが求められます。自分が生まれ育つ地域の歴史を学び、その文化的財産の価値を知る必要があります。

国の指定天然記念物である「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」をはじめ、有形、無形の文化財が多数存在します。先人から受け継いだ貴重な文化財を荒廃させることなく、祭り、伝統行事、風俗習慣など地域固有の伝統文化をまちの財産として後世に伝え残していかなければなりません。





● 目指す方向 ●

① 芸術文化に触れる機会の確保を図ります

② 芸術文化活動の促進を図ります

③ 芸術文化活動の拠点整備に努めます

④ 歴史的・文化的資産の保護、活用 に努めます

● 関連する個別計画 ●

・菰野町教育振興基本計画（②）

● それぞれの役割 ●

町民・地域の役割	行政の役割
・芸術文化に積極的に触れる ・地域における伝統行事や風俗習慣を次の世代に伝えていく ・地域の宝や文化的資産を守る意識の高揚を図る	・町民が地元の魅力や継承されてきた地元文化に触れ、学び、理解し継承したいと思うことができる環境整備と情報発信を行う ・文化財の適正な保存管理を行う

持続的な農林業の振興

● 現状と課題 ●

当町の農業は、大規模な優良農地を中心に認定農業者や集落営農組織等による効率的な営農が進められ、その営農規模も年々拡大しています。しかし、こうした担い手農家についても高齢化が進んでいることから、新規認定農業者を確保しつつも後継者不足が懸念されており、先端技術を活用し、自動化、省力化を図るスマート農業への期待が高まっています。また、町内産農産物においては海外産品との競争が激化している状況であり、持続可能な農業生産を確保する取り組みとして、GAP¹⁷認証の取得を検討し、農業経営の改善や効率化を図ることが求められます。将来にわたって持続的に農業経営が続けられるよう地域営農体制を維持、強化しながら、消費者に選ばれる品質の良い農産物を提供していくことが必要です。

町内における農業では、食の安全安心や食育などの面から、地産地消の重要性が高まっています。今後、子どもが食に関心を持ち、食を通じて健全な心身が育まれるよう、地域の食への理解を深める教育や交流の機会を持つことが重要です。

当町では、町名の由来ともなっている「マコモ」を中心に様々な特産物の振興を図ってきました。また、観光地である利点を活かし、宿泊施設における地場農産物の活用を行うなど、農商工連携による「食の観光」を展開し、町内外の方々に町農業の魅力を発信しています。

農家が減少する中、農道や農業用排水路といった土地改良施設の維持管理が課題となっていますが、多面的機能支払制度による農村環境整備を進めるとともに、これらの制度を活用し、施設の長寿命化を図り地域組織の強化が求められます。

鳥獣害対策事業に関しては、年々被害が増加し、地域ぐるみでの追い払いや大規模な侵入防止柵の設置を行い、捕獲による個体数調整を実施しています。また、CSF¹⁸（豚熱）の感染が全国的に拡大しているため、家畜伝染病の適切な感染防止についても対策が求められます。農地の耕作放棄地対策と併せて、引き続き有効な方策について各関係機関で検討していく必要があります。

林業を取り巻く環境は、全国的に依然として厳しい状況ですが、森林の持つ公益的機能や生物多様性の側面が重要視され、国による様々な施策が実施されています。森林所有者、林業施業者、地域住民などと連携を図りながら森林資源の有効活用を検討し、森林の公益的な機能を維持するため、適切な林道整備等を行うとともに間伐材等を活用した取り組みを進める必要があります。



● 目指す方向 ●

① 安定した営農体制の確保に努めます

② 産地化の促進を図ります

③ 地産地消の促進を図ります

④ 農地、農村環境の保全に努めます

⑤ 有害鳥獣対策の促進を図ります

⑥ 森林資源の管理、活用に努めます

● 関連する個別計画 ●

- ・ 菰野町人・農地プラン（①）
- ・ 菰野町農村環境改善センター長寿化計画（①～⑤）
- ・ 菰野町健康増進計画・食育推進計画（③）
- ・ 菰野町教育振興基本計画（③）
- ・ 菰野町障がい者福祉計画（③）
- ・ 菰野町鳥獣被害防止計画（⑤）
- ・ 菰野町森林整備計画（⑥）

● それぞれの役割 ●

町民・地域の役割	行政の役割
・ 地元農産物を積極的に購入し、情報発信を行う ・ 「菰野ブランド」への意識を高める ・ 農村環境を維持、向上させる取り組みに参加する ・ 侵入防止柵の設置等、鳥獣被害を防止する取り組みに参加する ・ 森林との触れあいを通じて、森林の持つ特性を理解する	・ 地域営農の中核となる担い手や地域営農の育成、確保を図る ・ 農産物の高品質化・産地化を図り「菰野ブランド」の推進に努める ・ 地産地消の生産、販売システムの構築や情報発信に努める ・ 町民による侵入防止柵の設置や捕獲活動等に対し、国、県、町の支援制度による支援を行う ・ 農用地の環境を保全する活動組織への支援を行う



活力を生み出す商工業の振興

● 現状と課題 ●

地方における商業を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、アピールポイントを明確化するなど他との差別化を図る個別店舗が増え、商店街が独自サービスで活力を取り戻し、大型店舗とのすみ分けを図りながら、地域住民の消費材の提供元として、また、地域コミュニティの拠点としての役割を担うことが求められています。さらに、消費者の満足度を高める商業の展開を図るため、空き店舗の利活用に向けた方策を検討することが求められます。

当町では製造業の比率が高く、製造品出荷額等は増加しています。しかし、令和2年に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、特に中小企業の経営は厳しい状況が予想され、先行きの不透明感などから非正規雇用が拡大する可能性があります。なお、少子高齢化の進行による生産年齢人口の減少という構造的要因から人手不足への対応も必要となっています。

今後は、町に活力を与え、雇用の創出のため優良企業の立地を促進するとともに、商工会などの関係機関と協力して、経営基盤の強化や労働環境の改善に向けた支援の強化や情報提供が求められています。

● 目指す方向 ●

① ニーズに合った商業の展開を図ります

② 商工業経営基盤の強化を図ります

③ 企業立地の支援を図ります

● それぞれの役割 ●

町民・地域の役割	行政の役割
・ 地元の商店街で買い物する ・ 地場産品に対して、興味・関心を高める ・ 地域の企業に対して関心を持つ	・ 商工会と連携し、町内業者への支援を行う ・ 商店街整備や顧客サービスの展開を促進するとともに空き店舗の利活用に向けた方策を検討する ・ 県や周辺市町と連携して情報収集に努めるとともに、立地企業へのネットワーク化などの支援策を検討する ・ 雇用の確保に向けて、優良企業の進出の促進を行う